
苦笑する苦悩

LAMP

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

苦笑する苦惱

【Nコード】

N6143N

【作者名】

LAMP

【あらすじ】

おいおい、嘘だろ…久しぶりの手紙。昔の友人からの、その内容とは

(前書き)

フィクションとノンフィクションの狭間の作品です。

馬渡は、中学の時の数少ない友達だった。

三年間、同じクラスで同じ部活にも入っていた。

修学旅行を途中で抜け出し、缶ビールで乾杯するぐらいの悪友でもある。

ただ頭だけは別で、あいつは進学校。俺はギリギリ滑り止めにひっかかるぐらい。

中学を卒業してからは、携帯の番号もしらない。連絡だって取るうとしなかった。

あいつの声を最後に聞いたのは、いつだろう？

「久しぶり!!」

数年前の成人式。それが最後ではなかっただろうか？

閑話休題。長々と馬渡の話をしていったって、何の意味もない。

問題なのは、馬渡じゃない。彼の送ってきた一枚の薄っぺらいカードなのだ。

『招待状』

そこには、そう書かれていた。飾りのこった台紙に、丁寧に打ち込まれた文字。その中には、手書きのカードが一枚添えられており

(絶対来てくれよな!!)

あの頃のあいつがそう言っているような、元気な文字が追記されていた。

「ふむ、どうしたものか…」

もちろん、すぐに参加に丸をつけて送り返せば良いだけの話だ。何の難しい話ではない。

彼の一世一代の晴れの日。友人として、祝福してやればいい。ただ、彼の横にある名前。それが問題だった。

『坂崎弥生』

しかも彼の追記の中には、彼女のことだ

(お前と同じ高校で、一個上の…)

という文字が踊っていた。そんなはずはない、そんな馬鹿な話はない。

無駄に脈打つ心臓がひどく憎らしかった。

「あの弥生じゃねえよな？馬渡よ」

同じ高校で坂崎弥生という名前を、俺は誰よりも知っていた。名前だけじゃない。彼女の癖も性格も、寝相の悪さだって知っている。

「私を落とせるのは、金持ちかエリートスポーツマンだけよ」

なんて言っつて、スポーツ音痴の貧乏人と付き合っつた女。

しかも、彼女の卒業式の日、私は東京に出るから、と泣きながら離れていった女でもある。

「はあ…まさか、だよなあ…どうしよう…」

別れ方が別れ方だっただけに、俺の心の数パーセントの値。彼女がいつも占めていた。

女にふられるたびに、弥生を思い出しては、都合のいい女にして目の前に現れないかと思っつたものだ。

（絶対来てくれよな！！）

彼のその言葉に何か裏を感じてしまう。それが、悩みだった。思えば、俺とあいつはよく似ていた。性格や雰囲気もだが、俺の

初恋の娘を、馬渡に彼女と紹介された時どれだけショックを受けただろう。

「全く、やってくれるぜ」

そう言いながら俺はペンで『御』に二重線をひき、『出席』に丸を着けた。

「スーツはこれでいいとして、ワイシャツは…ドン・キホーテにでも買いに行けばいいか…」

なぜか、ドキドキとワクワクが胸の中いっぱい。顔はニヤニヤしてしまう。

覚悟をつけたからだろうな、そう言い聞かせた心に自分自身笑われているように感じる。

人生一期一会

でも、こんなサプライズな二度目なら、笑ってむかえなくちゃな。そして、切に願う。

「当日ボロが出ませんように…！」

普段信じない神様に、その時ばかりは、祈っていた。

(後書き)

つたない文章をお読みいただき、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6143n/>

苦笑する苦惱

2010年10月11日00時11分発行